

### 千葉支社交渉速報①

# 12月ダイ改闘争を闘いぬこう

動労千葉は、十一月八日を皮切りにして、一二月ダイ改に向け、この間の懸案事項の解決及び各職場での諸要求の改善等について、千葉支社との間で連日団体交渉を行い、原因不明の車両故障や保安装置故障等により連日にわたって列車の運行が混乱するという状況の中で、会社としてもJR総連との結託体制―労務政策優先のあり方を改めることなどを強く求めてきた。団交の主なやり取りは、以下のとおり。

## ATOSの度重なるダウンなど、輸送混乱の多発に對する会社の認識を追及

**組合** この間、ATOSの度重なるダウンや保安装置の故障、原因不明の車両故障等が多発しているが、今後の対策等について千葉支社ほどのように考えているのか。また、今年八月以降管内で発生した列車運行に影響を及ぼした主な事故について明らかにしてもらいたい。

**会社** この間の輸送混乱が多発している状況については、支社長が先頭になり、乗客等に迷惑をかけているという重大な認識を持っており、再発防止にためていきたいと考えている。輸送混乱等が発生した場合、応急措置や復旧体制を行うプロジェクトを発足させるなど、取り組みの強化を行っているところである。

また、八月以降に発生した主な輸送混乱は、八月四件(保安装置故障三件、車両破損一件)、九月二件(保安装置故障一件、車両故障一件)、一〇月三件(保安装置故障三件)となっている。

**組** 保安装置故障の内、八月三十一日、九月一日、一〇月八日とATOSの故障が連続で発生しているが、今回のように、システム全体がパンクするようなシステム自体欠陥システムではないのか。

**会** 不正情報がRAN上に流れたことが原因になっている。各地からの情報を通信制御装置で情報を分離する素子が環境により誤動作することがあるため、ICを交換するように対処している。

**組** 現在の状況でいえば、何かあれば全て停まっている。これが重大な問題ではないのか。機械を未だ成熟しないまま導入してしまったことにより、どれだけ多くの混乱が発生し、迷惑しているのかを本当に分かっているのか。

**会** ATOS導入は、全体的な貢献度としては相当に高くなっていると考えている。

## 二箇所でコールドジョイント

**組** 現在、コンクリートやトンネル壁の落下事故が相次いでいるが、千葉支社管内でも最近コンクリート落下が発見されたが、

点検状況等はどうなっているのか。

**会** 千葉支社管内にある八六カ所のトンネルについては、年内に全て点検を終了する予定で、現在までに約半分が終了している。また、コンクリートの落下等が想定される箇所については全て終了している。これまでの検査では、昭和三〇〜五五年に製造された箇所を優先して点検を行っている。

**組** これまでの点検で、ハンマーでの濁音等が発見された箇所はあるのか。

**会** これまでのところ、外房線の土気トンネルと内房線の新子安トンネルでコールドジョイントを発見している。しかし、この箇所は、叩いた程度で剥離することはありえないので、今後対策を検討していく考えである。

**組** 西日本で発生している事象も含めてJR全体の問題であり、会社として全力で取り組んでもらいたい。

## 一二月の訓練で周知徹底をはかることを確認

**組** 長期間乗り入れていない線区への乗り入れの問題については、これまで会社との間でかなり長い間議論し、「六ヶ月間」ということについて各現場に徹底させることを確認してきたが、全く理解していないところがあったが、千葉支社としてどのような

に指導してきたのか。

**会** この問題については、一〇月二七日の指導助役会議で徹底をはかってきたところである。

**組** この問題は、大月駅での列車衝突事故を契機にして徹底的に議論されてきたにもかかわらず、なぜ現場では徹底されていないという状況になっているのか。

**会** 会社としては、六カ月はこだわらないが、六カ月を過ぎた者については、指導等が添乗する仕組みになっている。また、六カ月未満の者についても、本人からの申告があった場合には指導等が添乗するようになっている。

**組** そうであるならば、なぜ各現場で掲示などを出して全ての運転士への周知徹底を行わないのか不思議だ。例えば、京葉運輸区などでは、ダイ改からダイ改の間まで東金線に行かない運転士も出ているのが現状であり、運転士に徹底させる必要があるのではないか。

**会** この問題については、会社が管理すべきことであると考えている。

※この問題については、会社側が続き協議としたいとして一旦打ち切ったが、翌日の交渉において、一二月中の定例訓練で運転士への周知徹底をはかることを確認した。